

一般財団法人新潟県建設技術センター
令和元年度 研究助成事業

『八十里越歴史の道調査研究及びルート整備事業』報告書

令和2年3月19日
特定非営利活動法人 しただの里

はじめに

山岳縦走ファンや歴史小説ファン等に人気のある八十里越は近年の大水害や豪雪により、多くの破損箇所が生じ危険なルートとなっている。しかし、近年の登山人気や多くの観光客が軽装で八十里越に足を踏み入れており、山岳事故を心配する声が上がっている。

そこで、八十里越ルートを専門家と共にトレッキングしながら調査・研究して、安全に楽しめるコースを整備、掲示・広報し、多様な観光客の安全性を向上させつつ、誘致促進することで地域の活性化を図ることを目的として実施した。

背景や必要性

八十里越は、新潟県の三条市から福島県の南会津郡只見町に至る街道および峠である。この街道は司馬遼太郎の小説『峠』の舞台となったことや、河井継之助の「八十里こし抜け武士の越す峠」の狂句などで知られる歴史山道である。

八十里越には従来三本のルート「明治新道・明治中道・天保古道」があるが、現在往来に使用されているのは「明治新道」である。しかし、平成16年の7.13水害や平成23年の7.29水害に加え、近年の豪雪で多くの破損箇所が生じ、現在は危険の多いルートとなっている。

一部の山岳縦走ファンや歴史マニアには全国的に人気のあるスポットであるが、平成27年にリニューアルオープンした施設『吉ヶ平自然体感の郷』の集客効果や昨年の「戊辰150周年」の機運で、多くの一般観光客が軽装で八十里に足を踏み入れていることで、地元では山岳事故を心配する声が上がっており、ルートの調査、研究、再整備が課題となっている。

事業の内容とその特徴

当団体は、八十里越を含む下田地区のグリーンツーリズムの活性化を目的に平成24年に設立。主な活動としては、親子を対象にふるさとの魅力を体感学習する子ども観光大使養成事業やただ自然体験観光ガイド養成事業、山里・吉ヶ平にブナ苗等の植樹をする里山整備事業など。

当事業では、従来八十里越の整備にあたってきた吉ヶ平保存会など下田地区のコミュニティ団体や八十里越を保有管理している行政や福島県の只見町など、各関係機関とも丁寧な連絡調整を図り、先ず「明治新道」の破損箇所を調査・整備しつつ、次に「明治新道」と交わるように巡っている「明治中道」と、天保に開削された「天保古道」を調査・整備することで、新道・中道・古道を一体的に再整備し、新道・中道・古道を繋げた新たなトレッキングコースを設定して、方向指示標識・歴史解説標識・警告標識等を設置し、一般観光客も安全に楽しめる新たなトレッキングコースを整備する。

また、専門家や関係者を交え八十里越をテーマにしたフォーラムを開催する事で、当事業の内容を広く県内外に広報し、八十里越の魅力と事業の意義をアピールして、地域や関係機関の理解と協力の基盤を強化する。

更に新潟・福島両県を結ぶ国道289号「八十里越道路」の通行不能区間の解消は、長年三条市と只見町の悲願であると共に両市観光による交流人口増加の起爆剤として期待されており、八十里越の活性化は、国道289号の早期開通の機運を高める重要な事業である特徴がある

◇令和元年度八十里越ルート整備・調査実績

ルート整備・調査（除草・倒木撤去作業・看板設置）

- ・5月3日 2人 ・5月19日 7人 ・6月2日 6人
- ・6月9日 2人 ・6月15・16日 12人 ・7月13・14日 5人
- ・9月7・8日 8人 ・9月23日 5人 ・10月7日 3人
- ・11月2日 6人 ・11月18日 1人 ・2月10日 3人

◇調査結果の概要

ルート調査においては、設置したルート上の案内看板や矢印等が、豪雪や山崩れ、草木の繁茂により壊れており、新たに制作した看板や矢印等を再設置した。

また、歴史調査・研究では、映画「峠 最後のサムライ」の主人公河井継之助などが戊辰戦争時に長岡藩がどの様に八十里越に関わり、どのルートを通ったかに加え、新たに、映画「瞽女 GOZE」の主人公小林ハルなどの足跡を掘り起こし、次年度以降の調査・研究事業に繋がるテーマや課題を発見することができた。

《 設置看板 》



《 除草・整備・調査 》



2019/6/2



2019/6/9



2019/6/15・16



2019/10/7



2019/11/2



2019/11/18



2020/2/10

◇八十里越フォーラム 2020 「八十里を越えた映画」

日時：令和2年2月23日（日）

午後1時～4時00分（会場・受付：12時30分～）

会場：三条市体育文化会館 マルチホール

・第一部（午後1時～1時40分）

朗読・講演 元NHKエグゼクティブアナウンサー
NPO法人日本トレッキング協会 会長
國井 雅比古

演奏 **萱森 直子**

・第二部（午後1時50分～3時20分）

司会 **國井 雅比古**

パネリスト 映画「瞽女 GOZE」脚本・監督
瀧澤 正治
「峠 最後のサムライ」助監督
酒井 直人

・第三部（午後3時30分～4時）

瞽女唄 **萱森 直子**

入場者数：467名 スタッフ20名 計487名





看板



受付



第一部



第二部



第三部

成果

大自然や歴史ロマンが詰まった魅力あるトレッキングコースをさらに整備する当該事業の実施により、幅広い世代がより安全に八十里を訪れることができるようになった。

それらの情報を各種マスメディアへのプレスリリースやSNS、会報などで積極的に情報発信し、全国の山岳縦走ファンや歴史マニアの他、近年増加しているトレッキングファンの山ガールやシニア層など、県内外から多くの観光客を誘致促進することができた。

また、映画「瞽女GOZE」・「峠 最後のサムライ」の記念イベント等とも連携し、国道289号の早期開通の機運を高めるとともに、八十里越の入口である吉ヶ平自然体感の郷の来場者数増加に貢献できた。

- 八十里越や吉ヶ平自然体感の郷を案内するシニア観光ガイドに対し、調査研究整備の内容を研修し熟知してもらうことで、シニア観光ガイドが、観光客を安心して案内できる基盤整備に寄与できた。
- 特定非営利活動法人新潟夢みらいネットや特定非営利活動法人NPOさんじょうなど、多様な組織との協働により、各種大会や自然体験イベントなどを誘致し、八十里越を切り口にした下田地区のグリーンツーリズムの活性化を図ることができた。
- 八十里越ルートの特極に位置する福島県只見町側の関係団体とも連携・協力し、八十里越ルートの継続した保全に取り組む体制を強化できた。

まとめ

当事業では、従来八十里越の整備にあたってきた吉ヶ平保存会など下田地区のコミュニティ団体や八十里越を保有管理している行政や福島県の只見町など、各関係機関とも丁寧な連絡調整を図った。

先ず「明治新道」の破損箇所を調査・整備しつつ、次に「明治新道」と交わるように巡っている「明治中道」と、天保に開削された「天保古道」を調査・整備することで、新道・中道・古道を一体的に再整備し、新道・中道・古道を繋げた新たなトレッキングコースを設定して、方向指示標識・歴史解説標識・警告標識等を設置し、一般観光客も安全に楽しめる新たなトレッキングコースを整備した。

また、専門家や関係者を交え八十里越をテーマにした八十里越フォーラム2020「八十里を越えた映画」を開催する事で、当事業の内容や関連の映画のPRをするとともに広く県内外に広報し、八十里越の魅力と事業の意義をアピールして、地域や関係機関の理解と協力の基盤を強化することができた。